

〒540-6591
大阪市中央区大手前1丁目7番31号
TEL 06-6945-4501 FAX 06-6945-4505
Eメール info@nihonshogeiin.or.jp
ホームページアドレス
<http://www.nihonshogeiin.or.jp/>
平成24年(2012年)2月発行
編集・発行人
公益社団法人 日本書芸院 理事長
杭迫柏樹

無
料

公益社団法人 日本書芸院

私たちも児童生徒一般すべての人々の書写の環境を整え、豊かな心を取りもどすため総力をあげて「手書き文字の振興」に取り組んでいます。



【目的】 文字・活字文化振興法の骨子
し、知的で豊かな国民生活および活力ある社会の実現に寄与する。
【基本理念】 国民が等しく豊かな文字・活字文化の恵みを受ける環境を整備すること。
【地域での振興】 市町村は公立図書館を設置する。

配慮する。学校では「言語力」をはぐくむ。
国や地方公共団体は文字・活字文化の振興策を策定し、実施する責務

国や地方公共団体は司書の充実など人材体制を整備し、資料の充実を図る。学校図書館を開放する。
【国際交流】 文字・活字文化の海外への発信を促進。翻訳の支援をする。

国民の関心と理解を深めるため、十月十七日を文字・活字文化の日とする。

「伝統と創意」 広報紙 書くよろこび

第6号

寄稿



文部科学省
初等中等教育局長
山中伸一氏

- 一、日本の伝統文化芸術を守り育もう
- 二、すばらしい日本語の心を伝えよう
- 三、心を映す文字をより大切にしよう
- 四、書く楽しさ喜びを通して健やかな心を養おう
- 五、美しい文字で潤いのある豊かな人生を送ろう

美しい心は手書き文字から

家、紫舟さんの展覧会が昨秋に恵比寿ガーデンプレイスで開かれました。大きな部屋に大画面があり、木の枝や花の画面の中を紫舟さんの書が流れるように映し出されます。その前に立つと、立った人の影が画面に映り、書が人の中に入り込み、人から生まれ出していくような何とも言ひ難い感動がありました。

筆で文字を書くという世界が、世の中で広がり盛り

の弾力性や柔軟性を生かした運筆を体感して欲しいと思います。

教育基本法が平成18年に改正され、日本の伝統文化を尊重することこれが教育の目標に掲げられました。国語では例えば、小学校の低学年から古典の暗唱による言葉の美しさやリズムを体感すること。中学では和楽器の取り扱いを重視したり武道の指導が盛り込まれるなどなど。我

表現力を豊かに

書きたい。それが筆で書き添える。一言、言葉を書かなければ書けない。それがいかに貴重な思いで年賀状を書いた人も多いと思います。

子どもの時から手書き文字の感覚や毛筆で書くことを体感させる。ワープロや画面タッチで文字を書く時代だからこそ、文字を書く楽しさを体感させる教育が重要になっています。文字を書く教育を更に進めることが、子ども達の表現力を豊かにし、理解力を高めることに繋がることを願っています。

昨年の夏、東京国立博物館で「空海と密教美術」展が開催されました。空海は、真言宗をひらき、日本仏教界に大きな足跡を残しています。風信雲書で書き始められており、「風信帖」と並び三筆の一人に掲げられる偉大な書家でもあります。風信雲書で書き始められていることから「風信帖」

と呼ばれる、空海から最澄宛の手紙など、世に名高い名品。これが「弘法にも筆の誤り」の弘法

大師の書。筆の勢い、軽妙さに

ためいきができます。

NHK大河ドラマ「龍馬伝」の題字を書いた書

いを伝える。大きな災害を

体験し、人と人との繋がり

がいかに貴重な思いで年賀状を書いた

人もあります。新年を迎えるにあ

り、国語の書写では、「筆のつながり」など毛筆ならではの指導内容が新たに加わりました。平成24年4月から新しい学習指導要領が始まる中学校では、小学校の楷書に加えて行書を学習するになります。毛筆

上がっている気がします。平成23年4月から小学校の学習指導要領が新しくなり、国語の書写では、「筆圧」「穗先の動き」「点画のつながり」など毛筆ならではの指導内容が新たに加わりました。平成24年4月から新しい学習指導要領が始まる中学校では、小学校の楷書に加えて行書を学習するになります。毛筆

が国の大震災のあと、年賀状を出そそうという人が増えているという報道がありました。新年を迎えるにあたり、文字を書いて人に思

いを伝える。大きな災害を

この流れに沿ったもの

です。東日本大震災のあと、年賀状を出そうという人が増えています。新年を迎えるにあたり、文字を書いて人に思

いを伝える。大きな災害を

この流れに沿ったもの

高校書道

伝統芸術支える

学生書道のグランプリ、第16回全日本高校・大学生書道展(日本書芸院、読売新聞主催)で最優秀校に選ばれた東福岡高校(福岡県)、書を専門に学ぶ書芸コースで実績を上げる桜井高校(奈良県)、映画「書道ガールズ!!わたしたちの甲子園」で知られる松山女子高校(埼玉県)。書道に青春をぶつける高校生たちを通して、伝統芸術を支える若い力をレポートした。

東福岡高校

文武両道掲げ
最優秀校に

校庭に広がる巨大な人工芝グラウンドは、福岡ヤフードームグラウンドの1・7倍の規模を誇り、サッカー部やラグビー部の選手たちが日本を目指して駆け抜ける。書道展・最優秀校の東福岡高校は文武両道を掲げる男子進学校だ。

書道も全国の頂点に
サッカー部は平成9年にイ
ンターハイ、全日本ユース、
全国高校サッカー選手権で優

勝し、史上初の高校三冠に輝いた。ラグビー部も全国高校ラグビーフットボール大会(冬の花園)で3回優勝。野球部は甲子園に春・夏合わせて6回出場するなど(武)は



全生徒の必修である書道の授業



大きな紙に書く表情は真剣そのもの

東福岡高校はサッカーでも有名



書道展大賞の北原さん=写真=は中学生時代、野球に熱中したスポーツマン。高校で書道部を選び、「書いている時は何も考えないで作品に集中できる」と、性格に合ったといふ。受賞作は1000枚ほど書き込んだ労作。「淡墨の美しさに挑んだ。墨の色が勝負

書道展大賞に／体験入部で面白さ／やりがいある

書道展大賞の北原さん=写真=は中学生時代、野球に熱中したスポーツマン。高校で書道部を選び、「書いている時は何も考えないで作品に集中できる」と、性格に合ったといふ。受賞作は1000枚ほど書き込んだ労作。「淡墨の美しさに挑んだ。墨の色が勝負

なので、受賞作を仕上げた瞬間は「決まりた」と思った」と話す。

前年度部長の大田さん=写真=は体験入部したのがきっかけで、書道の面白さを知った。「大きな紙に思いっきり書くと気持ちがいい」。3年間、部活動に打ち込んだ。「まず人の」と

が小さな筆を持つ、一生懸命にかな文字を書いている姿はほほ笑ましい。

サッカーの長友佑都選手やプロ野球の村田修一選手、田中賢介選手らもOBで、長友選手は書道でも集中力を発揮したという。本松講師は「プロ野球選手のサインを見て、も、村田や田中の字は本物です」と話し、岩田教諭も「スポーツなどで一芸に秀でている選手は集中力が違う」と芸術との共通点を指摘する。

書道部は少數精銳

必修授業とともに、同校書道部レベルを引き上げるのが書道部。部活動は書道科の岩田啓司(草藍)講師が指導する。

1年生4人、2年生8人、3年生5人の少數精銳で、第16回全日本高校・大学生書道展では北原裕也さん(3年)が大賞に輝いた。書道展賞には大田恭平さん(同)、山口拓郎さん(同)、高橋玄祥さん(2年)、野村鴻太さん(同)、原正人さん(同)、村瀬颯さん(同)、前田卓也さん(同)の7人が選ばれた。(部員外では山本祐一郎さんも書道展賞を受賞)

部員は放課後、背中に「義之」と染め抜いたユニホームに着替えて、毎日3時間、土・日曜日には6時間ほど書き込む。

書道教室に入室する際には「失礼します」「こゝにちは」

2年生の授業は小筆を持たせて、徹底的にかなだけを教える。岩田教諭は「男子校だからこそ、繊細な集中力を養い日本文化の基礎ともいえるかなを教える」という。大きな体格のラグビー部

を教える。自分のことは後で考えると振り返る。

現部長の高橋さん=写真=は中学時代、野球部だったが、「小柄なので、高校では野球を諦めた」。小学校の時に書道の経験があり、書道部に入った。「部員みんながライバル。レベルが高いのでやりがいがある。将来も書にかかわっていきたい」と意欲を燃やす。



「う」とことを学んだ。貴重な財産です」と振り返る。

現部長の高橋さん=写真=は中学時代、野球部だったが、「小柄なので、高校では野球を諦めた」。小学校の時に書道の経験があり、書道部に入った。「部員みんながライバル。レベルが高いのでやりがいがある。将来も書にかかわっていきたい」と意欲を燃やす。



うな合宿だが、岩田教諭は芸術は人間の表現。人を思いやる気持ち、つながりの大切さを理解することから始まる」と説く。部員たちは、こうした指導理念のもと成長を続ける。

高校書道



畳の部屋で大作に取り組む生徒

書芸コースは平成23年度まで高校入試の特色選抜(書道)に合格した30人と一般選抜での入学者から希望を募り、2年生進級時にコースを編成している。24年度からは、さらに専門性を高めようと、特色選抜枠を35人に増やし、1年生からの編成に変わる。

書芸コースは平成23年度まで高校入試の特色選抜(書道)に合格した30人と一般選抜での入学者から希望を募り、2年生進級時にコースを編成している。24年度からは、さら

に専門性を高めようと、特色選抜枠を35人に増やし、1年

生だ。登校してきた生徒は、まずこの書を目ににする。細やかな気持ちの準備から一日が始まる。

創立百年を超える奈良県立桜井高校は男女共学の伝統校。一帯は大和王権発祥の地で、そんな歴史風土に支えられ、平成7年に書道教育の拠点として、書芸コースが開設された。文化遺産といわれる文字芸術を通して、日本の文化と伝統を育むという同校にふさわしい試みだ。

桜井高校

書芸コース設置 専門性を高める

若い力育てたい

大型テレビも駆使



細やかな文字の
指導にも熱が入る

全国の学科・コース
設置校との交流
中国研修旅行や
卒業書作展を開催

また、同校から大学へ進学した現役の大学生が教育現場を体験するティア・ティーチャー・プログラムを取り入れる。奈良県教委が始めた制度で、書道教育者を目指す学生が年間約80時間ほど同校を訪

かきたてられるという。平成23年度は福光幽石教授が文字造形を、農散山准教授が落款印作りを指導した。

秋になると、3年生は卒業書作展(12月に奈良県権原文化会館で開催)、2年生は県総合文化祭の出品に全力をあげる。井上教諭は「将来は、みんなが書のナビゲーターになれるように、書の良さが分かる生徒を育てたい」と語る。

れ、生徒たちと交流する。
ほかにも、書道科や書芸コースなどを設けた高校で組織する「全国書道高等学校協議会」に加盟し、教材研究などを通して、互いに連携を深めるなど幅広い視点から取り組んでいる。

また、作品の裏打ちなどの表具実習も学ぶ。
書芸コースでは「漢字の書」「かなの書」「漢字かな交じりの書」の高校書道3分野のほか、「篆刻・刻字」「実用の書(硬筆を含め、日常生活に役立つ書)」などを学ぶ。

中国研修旅行や
卒業書作展を開催

秋になると、3年生は卒業書作展(12月に奈良県権原文化会館で開催)、2年生は県総合文化祭の出品に全力をあげる。井上教諭は「将来は、みんなが書のナビゲーターになれるように、書の良さが分かる生徒を育てたい」と語る。

れ、生徒たちと交流する。
ほかにも、書道科や書芸コースなどを設けた高校で組織する「全国書道高等学校協議会」に加盟し、教材研究などを通して、互いに連携を深めるなど幅広い視点から取り組んでいる。

書芸コースで学習する科目と内容

1年

書道Ⅰ 漢字、かな、漢字かな交じりの基礎基本

2年

書道Ⅱ 漢字、かな、漢字かな交じり、篆刻

書道概論 中国、日本の書道史、用具・用材、

書の理論など

漢字Ⅰ 楷・行・草・隸・篆書、表具

かなⅠ 小字のかな、大字のかな(漢字かな交じり)、表具

3年

漢字Ⅱ 漢字Ⅰを深め、書の文化、伝統を考える

かなⅡ かなⅠを深め、書の文化、伝統を考える

篆刻・刻字 篆刻、刻字を通じて創造的な表現力を身につける

実用の書 硬筆、実用書式、陶書、染書



友達からも学ぶ／集中力高まる／書道楽しい

園から書をやっていたので、迷わず書芸コースを選んだ。かなの小さい文字を書いていると集中力が高まります

書道部員は40人余り。展覧会を前にした部員は午後9時ごろまで残って制作に打ち込む。

奈良県展で知事賞をもらったのが一番の思い出。先生だけでなく、友達からも学ぶことが多い」と話す。

部長の生野里穂さん(2年)「写真は小学生から書道を始めた。漢字も書くが、かなが好き。ジュニアが指導に当たる。

第一書道室の授業では、井上雅章教諭(漢字)と大嶋哲雄(峰道)教諭(かな)が指導に当たる。第一書道室の授業では、井上教諭や大嶋教諭の書いている姿や筆の持ち方、手の動きなどがテレビ画面に大写しされ、生徒たちが食い入るように見つめる。伝統芸術にハマった。機器を加えた指導法も魅力だ。

井上雅章教諭(漢字)と大嶋哲雄(峰道)教諭(かな)が指導に当たる。

第一書道室の授業では、井上教諭や大嶋教諭の書いている姿や筆の持ち方、手の動きなどがテレビ画面に大写しされ、生徒たちが食い入るように見つめる。伝統芸術にハマった。機器を加えた指導法も魅力だ。

井上雅章教諭(漢字)と大嶋哲

高校書道



かなのは筆の持ち方からという石原教諭

現在、部員は1年19人、2年7人、3年4人の計30人。石原裕子教諭が顧問を務め、実力を發揮する。

全国大会でも大震災復興支援として「NARITAから伝えるエール、そしてありがとう」に参加した。成田国際空港のターミナルで、津軽三味線の上妻宏光さんが同校書道部のために作曲したオリジナル曲「紙の舞」に乗って、パフォーマンスを繰り広げ、各國の言葉でへありがとうございました。

平成23年8月には、東日本大震災復興支援として「NARITAから伝えるエール、そしてありがとう」に参加した。成田国際空港のターミナルで、津軽三味線の上妻宏光さんが同校書道部のために作曲したオリジナル曲「紙の舞」に乗って、パフォーマンスを繰り広げ、各國の言葉でへありがとうございました。

かなの松女

多くの生徒に、書と接する機会を持つてもらおうと考えたのがパフォーマンスだ。福岡県の築上中高（現・県立青豊高）書道部が「DAPUMP」の曲を歌いながら、歌詞を書き上げるパフォーマンスにヒントを得た。部員らは「練習、忍耐、一体化、みんなの和が培われる」と、パフォーマンスの効果を語る。

名前が高まり、テ

レビや新聞、雑誌の

な文字に夢中だ。「意識的に筆を立てて書く練習を繰り返していくま

す。筆の持ち方で流れ

る」と気づいたという。平成24年度の全

国高校総合文化祭県代表に選ばれた。

大澤葵さん（同）写真は中学時

代にパフォーマンスを見た。「かつこ

い」と思って双子の妹とともに入部

した。「家族みんなで応援してくれま

す」と喜ぶ。書道展

賞にも輝き、書につ

いては「墨の濃淡や、

潤滑の組み合わせを勉

強しています」と語る。

な文字に夢中だ。「意識

的に筆を立てて書く練

習を繰り返していくま

す。筆の持ち方で流れ

る」と気づいたという。平成24年度の全

国高校総合文化祭県代表に選ばれた。

大澤葵さん（同）写真は中学時

代にパフォーマンスを見た。「かつこ

い」と思って双子の妹とともに入部

した。「家族みんなで応援してくれま

す」と喜ぶ。書道展

賞にも輝き、書につ

いては「墨の濃淡や、

潤滑の組み合わせを勉

強しています」と語る。

な文字に夢中だ。「意識

的に筆を立てて書く練

習を繰り返していくま

す。筆の持ち方で流れ

る」と気づいたという。平成24年度の全

国高校総合文化祭県代表に選ばれた。

大澤葵さん（同）写真は中学時

代にパフォーマンスを見た。「かつこ

い」と思って双子の妹とともに入部

した。「家族みんなで応援してくれま

す」と喜ぶ。書道展

賞にも輝き、書につ

いては「墨の濃淡や、

潤滑の組み合わせを勉

強しています」と語る。

な文字に夢中だ。「意識

的に筆を立てて書く練

習を繰り返していくま

す。筆の持ち方で流れ

る」と気づいたという。平成24年度の全

国高校総合文化祭県代表に選ばれた。

大澤葵さん（同）写真は中学時

代にパフォーマンスを見た。「かつこ

い」と思って双子の妹とともに入部

した。「家族みんなで応援してくれま

す」と喜ぶ。書道展

賞にも輝き、書につ

いては「墨の濃淡や、

潤滑の組み合わせを勉

強しています」と語る。

な文字に夢中だ。「意識

的に筆を立てて書く練

習を繰り返していくま

す。筆の持ち方で流れ

る」と気づいたという。平成24年度の全

国高校総合文化祭県代表に選ばれた。

大澤葵さん（同）写真は中学時

代にパフォーマンスを見た。「かつこ

い」と思って双子の妹とともに入部

した。「家族みんなで応援してくれま

す」と喜ぶ。書道展

賞にも輝き、書につ

いては「墨の濃淡や、

潤滑の組み合わせを勉

強しています」と語る。

な文字に夢中だ。「意識

的に筆を立てて書く練

習を繰り返していくま

す。筆の持ち方で流れ

る」と気づいたという。平成24年度の全

国高校総合文化祭県代表に選ばれた。

大澤葵さん（同）写真は中学時

代にパフォーマンスを見た。「かつこ

い」と思って双子の妹とともに入部

した。「家族みんなで応援してくれま

す」と喜ぶ。書道展

賞にも輝き、書につ

いては「墨の濃淡や、

潤滑の組み合わせを勉

強しています」と語る。

な文字に夢中だ。「意識

的に筆を立てて書く練

習を繰り返していくま

す。筆の持ち方で流れ

る」と気づいたという。平成24年度の全

国高校総合文化祭県代表に選ばれた。

大澤葵さん（同）写真は中学時

代にパフォーマンスを見た。「かつこ

い」と思って双子の妹とともに入部

した。「家族みんなで応援してくれま

す」と喜ぶ。書道展

賞にも輝き、書につ

いては「墨の濃淡や、

潤滑の組み合わせを勉

強しています」と語る。

な文字に夢中だ。「意識

的に筆を立てて書く練

習を繰り返していくま

す。筆の持ち方で流れ

る」と気づいたという。平成24年度の全

国高校総合文化祭県代表に選ばれた。

大澤葵さん（同）写真は中学時

代にパフォーマンスを見た。「かつこ

い」と思って双子の妹とともに入部

した。「家族みんなで応援してくれま

す」と喜ぶ。書道展

賞にも輝き、書につ

いては「墨の濃淡や、

潤滑の組み合わせを勉

強しています」と語る。

な文字に夢中だ。「意識

的に筆を立てて書く練

習を繰り返していくま

す。筆の持ち方で流れ

る」と気づいたという。平成24年度の全

国高校総合文化祭県代表に選ばれた。

大澤葵さん（同）写真は中学時

代にパフォーマンスを見た。「かつこ

い」と思って双子の妹とともに入部

した。「家族みんなで応援してくれま

す」と喜ぶ。書道展

賞にも輝き、書につ

いては「墨の濃淡や、

潤滑の組み合わせを勉

強しています」と語る。

な文字に夢中だ。「意識

的に筆を立てて書く練

習を繰り返していくま

す。筆の持ち方で流れ

る」と気づいたという。平成24年度の全

国高校総合文化祭県代表に選ばれた。

大澤葵さん（同）写真は中学時

代にパフォーマンスを見た。「かつこ

い」と思って双子の妹とともに入部

した。「家族みんなで応援してくれま

す」と喜ぶ。書道展

賞にも輝き、書につ

いては「墨の濃淡や、

潤滑の組み合わせを勉

強しています」と語る。

な文字に夢中だ。「意識

的に筆を立てて書く練

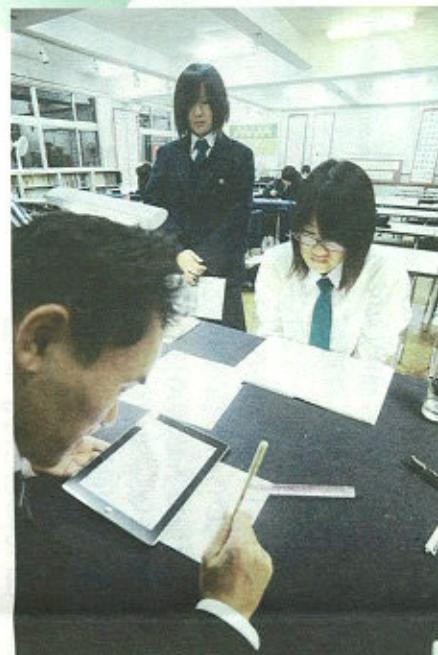
習を繰り返していくま

す。筆の持ち方で流れ

る」と気づいたという。平成24年度の全

国高校総

高校書道

**桜井**

書道に青春

一筆入魂

制作風景

**東福岡****松山女子**

書道科や書道コースなどで学べる主な高校

- 北海道** 松前（総合選択書道コース）
- 埼 玉** 県立大宮光陵（書道科）
- 県立伊奈学園総合（芸術系）
- 神奈川** 湘南学院（書道系科目群）
- 静 岡** 浜松学芸（芸術科書道課程）
- 浜松学院（書道コース）
- 県立沼津西（芸術科）
- 三 重** 県立四日市四郷（芸術コース）
- 奈 良** 県立桜井（書芸コース）
- 岡 山** 明誠学院（特別芸術コース書道系）

- 広 島** 県立熊野（芸術コース）
- 徳 島** 県立名西（芸術科）
- 福 岡** 県立八幡中央（芸術コース）
- 県立太宰府（芸術科）
- 佐 賀** 県立佐賀北（芸術コース）
- 熊 本** 県立御船（芸術コース）
- 市立必由館（芸術コース）
- 大 分** 大分（特進書道クラス）
- 鹿児島** 県立松陽（書道コース）
- 沖 縄** 県立小禄（芸術教養コース）

（全国書道高等学校協議会加盟校）

ト 手書き文字

感情、心の機微を伝え、文明の原動力
き文字の素晴らしさについて、学者や
動に携わる著名人に語ってもらった。

お手本もないし、練習も
しません。大体一発勝負。
たいていの場合、最初に
書いたのが一番いいです
ね。プロの方から見たら
突っ込み所は満載でしょ
うが、要はバランスだと
思います。大阪写真専門学
校(現ビジュアルアーツ専
門学校)で映画を創り始め、
そういうのはすごい」とほ
められて、以来習字は大好
きでした。

書を特に習ったわけでは
なく、全くの独学です。す
ただ子どもの頃、おじい
ちゃん(養父)に「何も
ない白い紙に墨で何か書け
るというのはすごい」とほ
められて、以来習字は大好
きでした。

映画の題字はほとんど自
分で書いています。「きゃ
からばあ」(2001年)、
「沙羅双樹」(03年)、「薦
の森」(07年)、カンヌ国際
映画祭グランプリ)、「七
夜待」(08年)、「玄牝」
(10年)、そして最新作の
『朱花の月』(11年)。

書を特に習ったわけでは
なく、全くの独学です。す
ただ子どもの頃、おじい
ちゃん(養父)に「何も
ない白い紙に墨で何か書け
るというのはすごい」とほ
められて、以来習字は大好
きでした。



映画作家 河瀬 直美氏

墨の濃淡 広がる表現力

映像の場合の構図と同じよ
うなものが書にあるんだ
ということに気が付いて、
自分で書くようになります。
手紙も半紙に筆ペンで書
きます。メールもありますが、
仕事の連絡などに限られま
す。何かのお礼とか、気持
ちを伝えたい場合は手紙。
月に5通から10通くらいは
書くでしょうか、現代人に
してはすいぶん書く方だと
思います。できれば墨と筆
で書きたいですね。

東大寺別当の上司永慶師
(第215世、2000年に
死去)に書をいただいた
ことがあります。「遊心法
界」という文字でした。意
味をお聞きしたら、自分で
考えるようにと言われまし
た。偉いお坊様だからご自
身は当然わかつて書いてお
られたと思つたんですが、
「人間はそれが出来ていな
いから書くのです」と言わ
れ、謙虚な深いお心を知り

私たち日本人は、書とい
う世界に誇れるすばらし
い文化を持っているのに、
日本を代表する文化ですか
らとても重宝がられます。
たとえば『朱花の月』だと、
万葉集がモチーフになつて
いるので万葉集の仮名文
字とか、その作品に関連
した言葉を選んで、半紙や
巻物にあらかじめ書いてい
きます。

私たち日本人は、書とい
う世界に誇れるすばらし
い文化を持つているのに、
日本を代表する文化ですか
らとても重宝がられます。

筆に込め

第7回 手書き文字ばんざい！

「文字・活字文化振興法」の成立(平成17年)に基づいて、10月27日が「文字・活字文化の日」に制定されたのを受け、日本書芸院は「手書き文字ばんざい！」大会(共催・読売新聞)を実施しています。平成23年も10月23日に大阪市中央区のOMMビル展示ホールで、「第7回手書き文字ばんざい！」を開催しました。今回のテーマは〈被災地への応援メッセージを書く〉。参加した約350人は希望の言葉などを書き込んで、被災地を励ました。

3月11日、東北地方を中心とした東日本は未曾有の大震災に見舞われました。多くの人が命を失い、住む家も津波などで無くしました。それでも人々は希望を失わず、復興に向けて懸命に頑張っています。今回、大震災の被災者を励ますと、手書き文字で応援メッセージを送ることにしました。

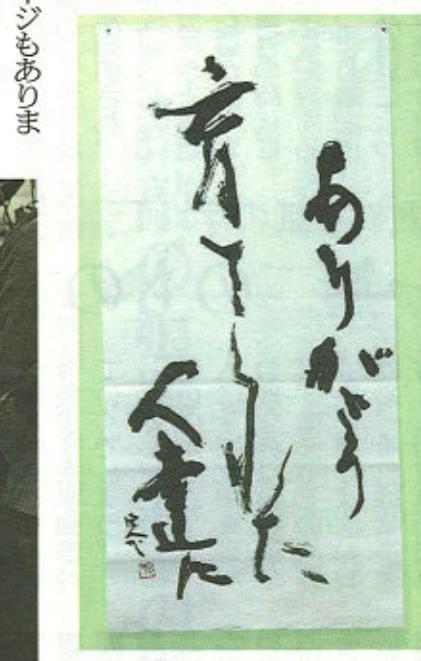
最初に、日本書芸院の高木厚人・副理事長が、「ありがとうございます」と大きな紙に書き上げ、大きな拍手に包まれました。高木副理事長は「大震災で命のはかなさや、大切さを実感しました。いろんな人に支えられて、育てられて、

被災地へ送る応援の心

今自分がいるということを感じています。だから、この言葉を選ばせていただきました」と話しました。

続いて、読売新聞大阪本社の太田宏社長が開会のあいさつを述べ、「文字の力は大変偉大です。日本の文化、世界の文化そのものです。今日は被災地のみなさんを応援するメッセージを心を込めて書いてください」とイベントの趣旨を説明しました。

この後、参加者は様々な書体の手本を見ながら、筆で「生の夢」や「愛」、「希」などの文字を書き上げました。色紙には「未来を信じて」「日本の底力」「手をつなぎます」、「今



▲ 大作揮毫作品
(高木厚人・本院副理事長)



【主催】公益社団法人日本書芸院、読売新聞社
【後援】文部科学省、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、
NHK大阪放送局、読売テレビ
【協賛】あかしや、呉竹、サクラクレパス、ゼブラ、トンボ鉛筆、
パイロットコーポレーション、ぺんてる、墨運堂(五十音順)



参加者の声

京都市右京区・小学2年 佐山伶さん(7)「お母さんやお姉ちゃんといろんな字を書いて楽しかった。いつか先生のような大きい字を書いてみたい」

福井県鯖江市・小学2年 福嶋桃花さん(7)「人前で書くのは、緊張したけど楽しかった。思ったように書けて良かった」

大阪府和泉市・小学5年 水野朱莉さん(10)「人と人がつながり、輪になって助けていきたいとの思いから『輪』という字を選んだ」

大阪市西区・小学6年 浅野友里綾さん(12)「被災地の人には『夢』を持ってもらうために力強く書いた」

兵庫県明石市・小学6年 杉岡優衣さん(12)「つらいことがあっても負けるなという気持ちが届いてほしいと思って書いた」

大阪市都島区 森由美子さん(40)「書道を習っている娘とお友達とで参加した。募金とはまた違い、被災地へのメッセージを書くことでまじめに向き合えた」

大阪市大正区 西澤雅子さん(64)「字を学ぶという共通項で、世代を超えて、共感できることは素晴らしい」

※「参加者の声」は平成23年10月27日付読売新聞朝刊から。年齢、学年、学校名は掲載当時。

「夢」という字 力強く／世代超えて共感

手書き文字

書きの文字
写・書道ってすばらしい
れいに美しく
字を書こう
の美しさは
文化のバロメーター



▲ NHK大阪放送局アトリウムで展示された第7回「手書き文字ばんざい！」大会の作品

希望の言葉

中学生書道紙上展」と「第16回全日本高校・大学生書道展」の成績優秀者13人による代表揮毫が行われました。多くの人が見つめる中、13人は真剣な表情で筆を運ばせました。糸井あすかさん(21)は「大勢の人の前で書く機会はないので、緊張しました。貴重な経験となり、大学生活の思い出ができました」と話していました。

「皆さん的作品を見て手書き文字は心がこもっているから魂がこもるということを実感しました。書という素晴らしい芸術を多くの人に伝えていきたい」と締めくりました。この日の作品は11月18日～20日の3日間、NHK大阪放送局1階アトリウムで展示されました。

中学生書道紙上展」と「第16回全日本高校・大学生書道展」の成績優秀者13人による代表揮毫が行われました。多くの人が見つめる中、13人は真剣な表情で筆を運ばせました。糸井あすかさん(21)は「大勢の人の前で書く機会はないので、緊張しました。貴重な経験となり、大学生活の思い出ができました」と話していました。

「皆さん的作品を見て手書き文字は心がこもっているから魂がこもるということを実感しました。書という素晴らしい芸術を多くの人に伝えていきたい」と締めくりました。この日の作品は11月18日～20日の3日間、NHK大阪放送局1階アトリウムで展示されました。

平成23年 全国シルバー書道展



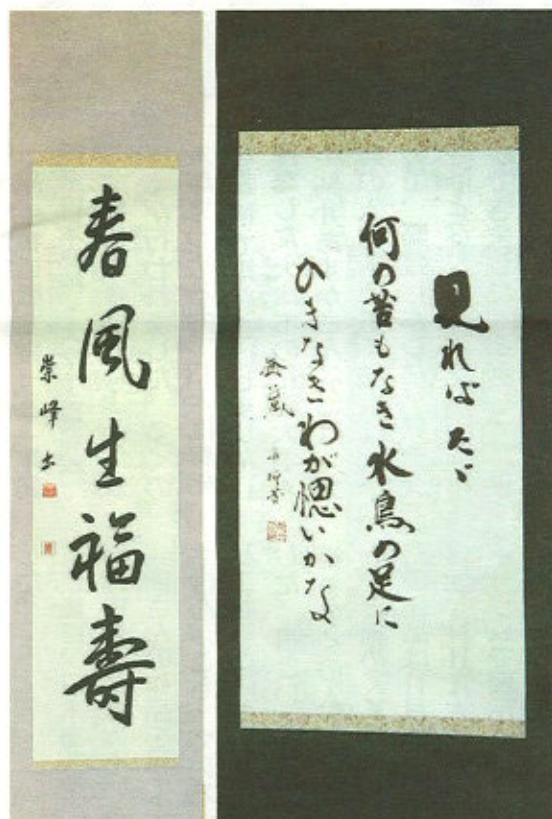
家族連れや書道ファンが次々訪れ、各会場とも好評を博した

平成23年の「全国シルバー書道展」は広島、大阪、京都など西日本の2府7県で開催された。広島展は2日間で入場者数2872人を記録、大阪展も昨年を上回る1572人が詰めかけた。大阪展に出品した101歳の女性が最高齢で、三重展には100歳の男性、岡山展には100歳の女性が健筆をふるうなど、シルバーエージの「元気さ」が来場者らを感動させた。隔年開催の和歌山展は23年が開催年。力作が並び、「毎年やってほしい」との声も上がるほど盛況だった。

生涯書道 健筆ふるう



第16回和歌山展は和歌山市民会館展示ホールで10月5日から5日間、開かれた。230人が出品したシルバー書道展のほか、孫や子とともに出品するアミリー展も同時に開催され、家族連れや書道ファンが次々と訪れた。



最高齢96歳・大前さんの作品と稻垣さんの作品

大前さんは「見ればたゞ何の苦もなき水鳥の足にひまなかわが懐いかな」と水戸光圀の歌を書いた。人は気楽そうに見えて、どこかで苦労しているという含蓄ある言葉で、メモを取り人もいた。

和歌山市の稻垣崇さんは94歳で、大前さんに次ぐ高齢者。「春風生福寿」(しゅんふうふくじゅ)をしようすと記した。田辺市鈴木里秋さんは村野四郎の詩「鹿」の一節から「生きる時間が黄金のように光る」と書き、シルバー書道展ならではの味わい深い作品が並んだ。

ほかにも、「般若心経」の写経や、「日々是好日」「樂天知命」「無我」「よろこべばそこが極楽 花ざかり」「人間はなあ生きているとなあ」などの言葉、正岡子規、良寛、山頭火

2府7県で開催された「全国シルバー書道展」

第23回広島展	1月6、7日 広島県民文化センター
第24回三重展	2月24~27日 津リージョンプラザ
第24回京都展	4月1~3日 日図デザイン博物館
第24回滋賀展	4月29日~5月1日 大津市歴史博物館
第23回奈良展	5月27~29日 奈良県文化会館
第24回大阪展	8月9、10日 OMM(大阪マーチャンダイズ・マート)ビル
第16回和歌山展	10月5~9日 和歌山市民会館
第24回岡山展	10月5~10日 天満屋岡山店
第24回兵庫展	10月29、30日 兵庫県立美術館・原田の森ギャラリー

※和歌山展は隔年開催



家族の絆が感じられるアミリー展

滝元美恵さん一家と4組ことどまつたが、それぞれの作品に家族の絆や温かさがにじみ出て、「書道は家族のコミュニケーション」というアミリー展らしさをうかがわせた。

同展実行委員長の笠野崇法さん(69)は「和歌山は、いかにして書を人生に生かすかと説いた天石東村(1913~1989年)先生の出身地で、書道人口は多い。出品者の多くから毎年開催してほしいとの要望があり、励みになりました」と話していた。

らの句などを書いた作品が会場を彩った。

ファミリー展は浦出理さん、寺澤令子さん、村上雅久さん、

滝元美恵さん一家と4組ことどまつたが、それぞれの作品に家族の絆や温かさがにじみ出て、「書道は家族のコミュニケーション」というアミリー展らしさをうかがわせた。

第16回 全日本高校・大学生書道展



力作・大作を熱心に鑑賞する入場者

【審査結果】

個人賞	全日本高校・大学生書道展大賞	51点
	全日本高校・大学生書道展賞	338点
優秀賞		731点
準優秀作品		1830点
優良作品		7824点

団体賞 高等学校の部

最優秀校	東福岡高等学校（福岡）2回目
優秀校 2位	明誠学院高等学校（岡山）
同 3 位	埼玉県立松山女子高等学校（埼玉）
第 4 位	岩手県立盛岡第二高等学校（岩手）
第 5 位	東京学館新潟高等学校（新潟）
第 6 位	熊本県立第一高等学校（熊本）
第 7 位	奈良県立桜井高等学校（奈良）
第 8 位	鹿児島県立伊集院高等学校（鹿児島）
第 9 位	岩手県立盛岡北高等学校（岩手）
第10位	岩手県立福岡高等学校（岩手）

団体賞 大学の部

最優秀校	京都橘大学（京都）8回目
優秀校 2位	奈良教育大学（奈良）
同 3 位	大東文化大学（東京）
第 4 位	岐阜女子大学（岐阜）
第 5 位	四国大学（徳島）
第 6 位	筑波大学（茨城）
第 7 位	大阪教育大学（大阪）
第 8 位	京都教育大学（京都）
第 9 位	花園大学（京都）
第10位	立命館大学（京都）

会 場	日 時	主 催	審査員	本院	本院	本院	本院	読売書法会	読売書法会	讀賣新聞東京本社	執行役員事業本部長
マイドームおおさか	平成23年8月3日（水）	日本書芸院・読売新聞社	（書家は50音順）	副理事長	副理事長	副理事長	常任総務	取締役事業局長	常任総務	久保 博	吉川 篤仙
1階										高木 厚人	樽本 樹邨
										黒田 賢一	杭迫 柏樹
										今 村 桂山	新井 光風

第17回 全日本高校・大学生書道展（予告）

【作品受付】平成24年6月30日（土）締切 ※同日消印有効
必要資料をご請求の上、作品とともにお送り下さい。

【会期】平成24年8月21日（火）～26日（日）
【会場】大阪市立美術館 地下展示室 全室（天王寺公園内）
【主催】公益社団法人 日本書芸院・読売新聞社
【後援】文部科学省（申請予定）
◇陳列 大賞・展賞・優秀賞を陳列します。（約1200点）
◇授賞式 展覧会最終日に授賞式・祝賀パーティーを開催します。
■作品応募要項の詳細はホームページでご確認下さい。
(平成24年4月以降)

はじける若さ
意欲作 1120点

学生書道のグランプリ「第16回全日本高校・大学生書道展」（平成23年）は漢字、かな、調和体（漢字、かな交じり）、篆刻の4部門から計1万774点の応募があった。最高賞となる全日本高校・大学生書道展大賞に51点が選ばれたのをはじめ、同展賞338点、優秀賞731点などが決まった。いずれも、書芸術の継承と発展を担う若い世代の意欲作で、上位三賞受賞作品計1120点が平成23年8月23日から28日まで大阪市立美術館（大阪市天王寺区）で展示され、期間中、1616人の入場者が鑑賞した。また、展示会最終日の28日には大阪国際交流センター（同）で授賞式が催された。



賞状を手にする受賞者たち

出品点数 1万774点

○種別

- 第1種 5116点 (2×8、2.6×6、4×4)
- 第2種 5260点 (全紙、聯落)
- 第3種 398点 (篆刻)

○多数出品都道府県

(上位10都府県。北海道から沖縄まで)
全都道府県より出品がありました

岩 手 県	1236点
大 阪 府	923点
鹿 児 島 県	831点
京 都 府	743点
東 京 都	662点
福 岡 県	614点
奈 良 県	563点
滋 賀 県	520点
埼 玉 県	471点
兵 庫 県	432点

○参加団体

高校	5805点
短大・大学	2116点
関東・中部会派	310点
専門学校・個人出品等	754点
本院会派	1789点



会場は拍手に包まれた



作品に見入る審査員たち

詳細はホームページで

「全日本高校・大学生書道展」「全日本小学生・中学生書道紙上展」の今年の作品応募要項や、昨年の詳しい結果報告は、下記ホームページをご覧下さい。

「全国シルバー書道展」

「全日本高校・大学生書道展」

「全日本小学生・中学生書道紙上展」事務局

〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31

OMMビル7階 公益社団法人 日本書芸院内

電話 06-6945-4501

FAX 06-6945-4505

Eメール info@nihonshogein.or.jp

<http://www.nihonshogein.or.jp/>

第6回 全日本小学生・中学生書道紙上展



日本書芸院と読売新聞社主催の「第6回全日本小学生・中学生書道紙上展」(平成23年)は全国から1万7477点の応募があり、各学年ごとに「ベスト100」作品が選ばれた。今回も、力強い筆致の秀作が目立ち、選出数が100を超える学年もあった。小学校6学年、中学校3学年で計924人が受賞し、それぞれに「ベスト100認定書」などが贈られた。同展は小、中学生の書写書道の技術向上と、書に親しむことによって豊かな心を養うことを目的に平成18年に創設された。回を重ねるごとに、作品の質も向上し、選出に当たった審査員らも手応えを感じていた。

紙いっぱいに元気よく

出品点数 1万7477点

○学年別	
小学1年生	876点
小学2年生	1683点
小学3年生	2373点
小学4年生	2746点
小学5年生	2720点
小学6年生	2692点
中学1年生	1776点
中学2年生	1429点
中学3年生	1182点

○団体別	
小学校	33点
中学校	171点
本院会派	1万2854点
書塾	4244点
その他	175点



第7回 全日本小学生・中学生書道紙上展(予告)

【作品受付】平成24年8月31日(金)締切 ※同日消印有効

【出品資格】小学校・中学校の児童・生徒

(平成24年8月31日 作品受付締切時)

【部門】小学1年生の部から中学3年生の部まで、各学年を部とします(9部門)

【主 催】公益社団法人 日本書芸院・読売新聞社

【後 援】文部科学省(申請予定)

■作品応募要項の詳細はホームページをご確認下さい。(平成24年4月以降)

審査員	会場	日時
OMMビル2階	OMMビル2階	平成23年9月26日(月)
本院理事長	会議室	
本院副理事長		
読売新聞大阪本社		
執行役員事業本部長		
高木厚人		
吉川蕉仙		
杭迫柏樹		
今村桂山		
黒田賢一		
真神魏堂		
窪田邦倫		

【選考内容及び賞】
一、全作品から名学年優秀作「ベスト100」・「ベスト100」を選び認定証を授与。
二、図書カードは各学年「ベスト100」・「準ベスト100」受賞者に贈る。
ただし、団体出品の場合は代表者を通じて送付。
【成績発表】
11月13日(日)。読売新聞紙上及び本院ホームページにて発表、各代表者に成績通知を郵送。
ただし、団体出品の場合には代表者を通じて送付。

「書くよろこび」を無料でお届けします

「書くよろこび」は、書くことのよろこびや楽しさを広く一般の方にアピールし、書写書道のより一層の振興と発展を目的とした無料の広報紙です(年1回発行、55万部)。

書道教室や部活動、展覧会場など、書や文字に関する様々な場面で配布、活用していただいている。

送料無料でお届けいたしますので、ご希望の部数と送付先を日本書芸院事務所へお申し付け下さい。お待ちしています。

伝統と創意

公益社団法人 日本書芸院

■展覧会

<日本書芸院展>

日本書芸院社員相互の共励琢磨による「書」の本質的研究を通して、後進の育成に尽力しています。

●日本書芸院展(役員展) 会場: 大阪国際会議場(大阪市北区)

●日本書芸院展(公募展・社員展) 会場: 大阪市立美術館(大阪市天王寺区)

●特別企画展・海外展

<その他の企画展>

小学生からシルバー世代まで、全世代を網羅する書道展を開催して、書の啓蒙と普及、我が国文化の継承・振興・発展のために活動しています。

●全日本小学生・中学生書道紙上展 読売新聞紙上

●全日本高校・大学生書道展 会場: 大阪市立美術館(大阪市天王寺区)

●全国シルバー書道展 近畿2府4県および三重・岡山・広島県で開催

■沿革と概要

昭和21年(1946年)11月創立

昭和22年(1947年)5月、社団法人の認可を受ける

平成18年(2006年)創立60周年を迎え、平成22年(2010年)6月に公益法人制度改革により、内閣府から公益社団法人の認定を受けた

■現在、北海道から沖縄まで全国に約1万5千人の社員を擁する我が国屈指の書道団体であり、社員の中から、文化勲章受章者2名(故村上三島、杉岡華邨)をはじめ文化功労者、日本芸術院会員、日本芸術院賞受賞者、日展や読売書法展など全国規模の大公募展の役員・審査員を務める著名な書道芸術家を多数輩出しています。

■毎年、公募を含めた書展や企画展、各種の講習会・講演会を開催しています。

■講習会

●記念講座

●教養講座

●「手書き文字ばんざい!」

(文字・活字文化の日記念イベント)

■出版

●作品集・図録

●会報

●研究誌・記念誌

●広報紙